

登録コード	L1340200	開講年度	2026				
担当教員	菊池 聡 他			副担当	佐藤 広英・木村 宏人		
授業科目	文化情報論応用実習						
英文授業名	Applied Informatics: Seminar						
授業タイトル	Applied Informatics: Seminar						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限 木曜・5時限
講義室	人文文化情報論実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			自分の関心事項を学問の文脈でとらえて、具体的な研究活動に繋げることができるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			情報の多面的な吟味から、適切な意思決定に至る批判的思考力を身につけることができる。			
授業で学べる「テーマ」	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】						
	身近な現象に問題を設定し、具体的な研究活動から問題解決を試みることができるようになる。						
全学横断特別教育プログラム	その他						
授業の概要	調査研究を実際に実施して、わかりやすく説得力のある形式で発信するための訓練を行う。まず、身近な問題に関する社会的態度をテーマとした質問紙調査もしくはウェブ調査を計画・実施し、多変量解析を中心とした分析手法と、表現手法を含めた研究能力を向上させる。さらに、それらの成果を社会に発信する「文化情報論フォーラム」を企画・運営し、調査研究データを学術ポスターや口頭発表の形で発表する。これらの一連のプロジェクトを通して総合的な情報活用能力を向上させる。						
授業計画	実習の進行により、内容や順序は多少変動する可能性がある。 1. 調査実習からフォーラム発表への進行ガイダンス 2. フォーラム発表の概要とテーマ 3. 相関と因果 因果関係の推定 4. 量的データの統計表現 分散分析の確認 5. 分散分析と回帰分析の交互作用の表現 6. 共分散構造分析のデータの示し方と読み方 7. 調査結果のまとめ方 8. テーマ別 グループ研究発表とディスカッション1 9. フォーラム運営企画/広報 10. 発表内容の改良・改善 11. フォーラム運営企画/特別企画 12. 学術ポスター発表 第一次稿作成 13. 学術ポスター発表 合評会 14. フォーラム準備作業 15. フォーラム順義進行 授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	節目ごとの課題とその発表（30%）、フォーラムの企画運営（30%）、最終レポート（40%）により、総合的な情報活用能力を評価する。						
成績評価の基準	(1)問題設定は適切であるか、(2)立論は明確か、(3)適切な手続きで尺度が作成されているか、(4)適切な手続きで調査設計が行われているか、(5)多変量解析について十分に理解できているか、(6)分析結果を正しく読み取り、記述できているか、(7)その場しのぎでない発展的な考察ができているか、(8)研究内容を分かりやすくプレゼンできたか、(9)体裁の守られたレポートになっているか、(10)毎回課題を提出できたか、の10点において評価を行う。 「卓越している」：上記のうち9つ以上が基準に達している。 「かなり上にある」：上記のうち8つが基準に達している。 「やや上にある」：上記のうち7つが基準に達している。 「水準にある」：上記のうち6つが基準に達している。						
事前事後学習の内容	毎回、授業内容にしたがってeALPS等を利用した事前事後学習について指示が出される。						
履修上の注意	2026年度は、文化情報論応用実習 と をあわせて履修すること。文化情報論領域の3年生は卒業研究の基礎形成のため、原則履修とするが、文化情報論以外の学生でも履修可能。ただし実習の性格上、前年度までに文化情報論基礎実習の単位を修得した者、もしくは、同等の能力があると担当教員に判断された学生に限る。また、教室や設備の収容能力を超えた場合には文化情報論の学生の履修が優先される。受講にあたっては基本的な記述統計と推測統計学の知識（「文化情報論特論 Ⅰ」履修相当）が必須と						

履修上の注意	なる。実習の初期に統計解析の基礎的理解を確認するためのテストを行い、その後に参加にあたってはこのテストのクリアを要求する。この点に不安がある受講希望者には、受講前に統計学の総復習を自ら行うことを奨める。 実習を通して、学生が自分で考える力を伸ばすという授業目的に反して、生成AIを「不適切に使用」したと判断された場合には、本授業の成績は0点とし、単位は認定されない。
質問、相談への対応	実習形式の授業であり、実習中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。 連絡先は担当教員・菊池のアドレス skikuch@shinshu-u.ac.jp へ。 ただし、個人の識別ができないメールについては返信しない。
教科書	使用しない。
参考書	小宮あすか・布井雅人『Excelで今すぐはじめる心理統計：簡単ツールHADで基本を身につける』講談社 2018 宮本聡介・宇井美代子『質問紙調査と心理測定尺度』サイエンス社 2014 小杉 考司『社会調査士のための多変量解析法』北大路書房 2007